

た か し



<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

新しい年を迎えて

校長 本橋 忠旗

あけましておめでとうございます。巳年は、蛇が皮を脱ぎ捨てて生まれ変わる様子から、「再生と復活」といった新しい始まりや変化を意味するそうです。また、今年は60年に一度の乙巳（きのと・み）の年でもあり、「変化と革新の年」「成長と発展の年」「チャンスの年」ともいわれます。新しい力、力強さを生み出す、そんな一年にしたいものです。

さて、以前、書店で何気なく開いた本の中に考えさせられる一節を見つけたことがあります。それは、「自分に全く関係ないところで、自分に全く関係ないと思う事が起こって、だから自分には全く責任がないと思うことでも、よくよく考えてみれば、はたして自分に全く責任がないと自信をもっていることができるであろうか。（中略）せめて、自分に責任あると思うことまでも、他人のせいにするこゝただけはやめにしたい。」というものでした。これは、パナソニック（旧松下電器産業等）を一代で築き上げ、経営の神様と呼ばれた松下幸之助氏が「責任を知る」と題して記したものです。

この一節を読んで、すぐに思い浮かんだのが「環境問題」や「エネルギー問題」、世界で起こる様々な「紛争」でした。そして、日常の身近な出来事や仕事に向かう自分の姿勢にも考えが及びました。

私たちの社会は、家族や地域、会社等での身近な人間関係から始まり、国内外の政治や経済、地球環境にも及ぶ国際関係等まで、大変複雑な関係性の上に成り立っています。松下氏の言葉は、単にものづくりやビジネスの狭い範囲での発想ではなく、「社会全体の関係性やつながりの広い範囲で考え、様々な事象について、常に自分のこととして当事者意識をもって考えなければいけないこと」を教えているのではないかと思います。だからこそ松下氏は電器産業の使命を見極め、一代で大きな会社へと成長させていくことができたのではないのでしょうか。

昨今、「ウェルビーイング（Well-being）」という言葉が耳にします。これは経済だけでなく、心の在り方や生活への評価・感情・価値、健康等について、例えば、「自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街・国が、どのようにすれば、よい状態でいられるのかについて考えること」と言われています。

こういった考え方を知ると、学びの場である学校がどういう役目を果たす必要があるのか、子供たちに教え、指導する立場にある私たち大人が、どういった問題意識をもって接する必要があるのか、「果たすべき自分の責任」として考えることができそうです。

「みんなの幸せを創るためには、何ができるのか」そのような未来志向の社会参画につながる学習活動の充実を図っていきたいと思う新年の始まりです。今年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

[参考]「道をひらく」 松下幸之助 PHP 研究所 1968 / 「教育政策におけるウェルビーイング」 内田由紀子、ジェルミー ラブリー

<https://www.mext.go.jp/kaigisiryoo/content/000177757.pdf>